

vCenter Operations Manager for Horizon 補足

vCenter Operations Manager for Horizon 1.6

このドキュメントは新しいエディションに置き換わるまで、ここで書いてある各製品と後続のすべてのバージョンをサポートします。このドキュメントの最新版をチェックするには、<http://www.vmware.com/jp/support/pubs> を参照してください。

JA-001509-00

vmware[®]

最新の技術ドキュメントは VMware の Web サイト (<http://www.vmware.com/jp/support/>) にあります
VMware の Web サイトでは最新の製品アップデートも提供されています。

このドキュメントに関するご意見およびご感想がある場合は、docfeedback@vmware.com までお送りください。

Copyright © 2014 VMware, Inc. 無断転載を禁ず。著作権および商標情報。

VMware, Inc.
3401 Hillview Ave.
Palo Alto, CA 94304
www.vmware.com

VMware株式会社
105-0013 東京都港区浜松町 1-30-5
浜松町スクエア 13F
www.vmware.com/jp

目次

VMware vCenter Operations Manager for Horizon 補足	5
1 システム要件	7
製品の互換性	7
vCenter Operations Manager for Horizon アダプタのソフトウェア要件	7
vCenter Operations Manager for Horizon Broker Agent のソフトウェア要件	8
vCenter Operations Manager for Horizon Desktop Agent のソフトウェア要件	8
表示 イベントを提供する Oracle データベースのサポート	8
vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 のハードウェア要件	8
2 vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 のインストールと構成	9
vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 インストール ファイルのダウンロード	9
vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 のインストールと構成	10
View 5.0 または 5.1 を監視するための vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 の構成	14
vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 へのアップグレード	16
セキュリティ機能の構成	17
vCenter Operations Manager for Horizon アラートの変更	17
vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 インストールのトラブルシューティング	19
3 vCenter Operations Manager での View 環境の監視	21
View のダッシュボードの使用	21
View 概要ダッシュボード	22
View インフラストラクチャ ダッシュボード	22
View ユーザー ダッシュボード	23
View リモート セッション ダッシュボード	24
View VDI プール ダッシュボード	24
View RDS プール ダッシュボード	25
View TS プール ダッシュボード	25
View VDI トポロジ ダッシュボード	26
View RDS トポロジ ダッシュボード	27
View アプリケーション トポロジ ダッシュボード	28
vSphere トポロジ ダッシュボード	28
View Adapter ステータス ダッシュボード	29
インデックス	31

VMware vCenter Operations Manager for Horizon 補足

「VMware vCenter Operations Manager for Horizon 補足」には、VMware® vCenter™ Operations Manager for Horizon™ 1.6 リリースのインストールおよび構成に関する情報が記載されています。

対象者

この情報は、vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 をインストール、アップグレード、または使用するユーザーを対象としています。

VMware の技術ドキュメントの用語集

VMware の技術ドキュメントには、新しい用語などを集約した用語集があります。当社の技術ドキュメントで使用される用語の定義については、<http://www.vmware.com/support/pubs> をご覧ください。

システム要件

vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 には固有のシステム要件があります。
vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 をインストールする前に、環境がこれらのシステム要件を満たしていることを確認します。

この章では次のトピックについて説明します。

- [製品の互換性 \(P. 7\)](#)
- [vCenter Operations Manager for Horizon アダプタのソフトウェア要件 \(P. 7\)](#)
- [vCenter Operations Manager for Horizon Broker Agent のソフトウェア要件 \(P. 8\)](#)
- [vCenter Operations Manager for Horizon Desktop Agent のソフトウェア要件 \(P. 8\)](#)
- [表示 イベントを提供する Oracle データベースのサポート \(P. 8\)](#)
- [vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 のハードウェア要件 \(P. 8\)](#)

製品の互換性

vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 は次の Horizon View、Horizon、および vCenter Operations Manager のバージョンと互換性があります。

- View 5.0.x または 5.1.x
- Horizon View 5.2.x または 5.3.x
- Horizon 6.0 with View
- vCenter Operations Manager vApp 5.8.2 デプロイ

注意 vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 を vCenter Operations Manager のスタンドアロン インストールで使用することはできません。

vCenter Operations Manager for Horizon アダプタのソフトウェア要件

vCenter Operations Manager vApp デプロイ内に vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 アダプタをインストールします。

このアダプタには次のソフトウェア要件があります。

- vCenter Operations Manager vApp 5.8.2
- vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 と vCenter Operations Manager 5.8.2 を有効化するライセンス。

vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 アダプタは、vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 broker agent、vCenter Operations Manager for Horizon 6.0 desktop agent、vCenter Operations Manager for Horizon View 1.5.x desktop agent と通信できます。

vCenter Operations Manager for Horizon Broker Agent のソフトウェア要件

vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 Broker Agent は、表示 環境の View 接続サーバ ホストにインストールします。Broker Agent は、各 表示 ポッドまたはクラスタの 1 つの View 接続サーバ ホストにのみインストールします。

Broker Agent のソフトウェア要件は、次のとおりです。

- View 接続サーバ 5.0 以降
- Microsoft .NET Framework バージョン 3.5

vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 Broker Agent を 32 ビット版の View 接続サーバ 5.0 ホストにインストールすることはできません。

vCenter Operations Manager for Horizon Desktop Agent のソフトウェア要件

Horizon 表示 5.2 以降および Horizon 6.0 with View 環境では、vCenter Operations Manager for Horizon desktop agent は、View Agent の一部としてインストールされます。

表示 5.0 または 5.1 環境を所有している場合は、デスクトップ上に 6.0 Desktop Agent を手動でインストールする必要があります。詳細については、「[View 5.0 または 5.1 を監視するための vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 の構成 \(P. 14\)](#)」を参照してください。

表示 イベントを提供する Oracle データベースのサポート

表示 イベントを SQL データベースまたは Oracle データベースに保存できます。表示 でサポートされる Oracle データベースと SQL データベースのバージョンについては、お使いの表示 バージョンのインストール ドキュメントを参照してください。

Oracle イベント データベースを使用する 表示 環境では、vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 Broker Agent がインストールされているサーバ上の ODAC クライアント ライブラリの更新が必要な場合があります。

64 ビット システムを更新するには、

<http://www.oracle.com/technetwork/database/windows/downloads/index-090165.html> にアクセスし、64 ビット ODAC 11.2 リリース 4 (11.2.0.3.0) Xcopy for Windows x64 のリンクから ZIP ファイルをダウンロードして、ZIP ファイルに含まれている `readme.html` ファイルの指示に従います。

注意 1.6 Broker Agent では 32 ビット システムはサポートされません。

vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 のハードウェア要件

vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 のハードウェア要件は vCenter Operations Manager for View 1.5.1 のハードウェア要件と同じです。

詳細については、1.5.1 リリース用の『vCenter Operations Manager for Horizon View のインストール』ドキュメントの「vCenter Operations Manager for Horizon View のハードウェア要件」を参照してください。

vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 のインストールと構成

2

vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 のインストールと構成には、VMware 製品ダウンロード ページからのインストール ファイルのダウンロード、vCenter Operations Manager および View 環境内のマシンでのソフトウェア コンポーネントのインストールと構成が含まれます。View 5.0 および 5.1 環境を監視するには、追加のインストールおよび構成手順が必要です。

この章では次のトピックについて説明します。

- [vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 インストール ファイルのダウンロード \(P. 9\)](#)
- [vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 のインストールと構成 \(P. 10\)](#)
- [View 5.0 または 5.1 を監視するための vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 の構成 \(P. 14\)](#)
- [vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 へのアップグレード \(P. 16\)](#)
- [セキュリティ機能の構成 \(P. 17\)](#)
- [vCenter Operations Manager for Horizon アラートの変更 \(P. 17\)](#)
- [vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 インストールのトラブルシューティング \(P. 19\)](#)

vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 インストール ファイルのダウンロード

登録済みの VMware ユーザーは、製品のダウンロード ページから vCenter Operations Manager for Horizon インストール ファイルをダウンロードできます。

表 2-1. vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 のインストール ファイル

ファイル名	コンポーネント	インストール場所
VMware-vcops-viewadapter-1.6.0-<buildnumber>.pak	アダプタ	vCenter Operations Manager vApp。 PAK ファイルは、vCenter Operations Manager 管理ポータルを使用してインストールします。
VMware-v4vbrokeragent-x86_64-1.6.0-<buildnumber>.exe	broker agent	View 接続サーバ ホスト。
VMware-v4vdesktopagent-6.0.0-<buildnumber>.exe VMware-v4vdesktopagent-x86_64-6.0.0-<buildnumber>.exe	Desktop agent	View 5.0 および 5.1 デスクトップ。 注意 Horizon View 5.2 以降および Horizon 6.0 with View の場合、desktop agent は View Agent インストーラに含まれています。

vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 のインストールと構成

View 環境と vCenter Operations Manager 環境のマシンに、vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 ソフトウェア コンポーネントをインストールして構成します。

開始する前に

- 環境が vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 のハードウェアおよびソフトウェアの要件を満たしていることを確認してください。第 1 章「システム要件 (P. 7)」を参照してください。
- 表示 がインストールされ実行されていることを確認します。使用している 表示 バージョンのインストールのドキュメントを参照してください。
- vCenter Operations Manager vApp がデプロイされ、実行されていることを確認してください。『vCenter Operations Manager vApp デプロイおよび構成』ドキュメントを参照してください。
- 製品のダウンロード ページから、vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 のインストール ファイルをダウンロードします。

vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 アダプタのインストール

PAK ファイルから vCenter Operations Manager vApp 上に vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 アダプタをインストールします。

注意 アダプタのインストール プロセスにより、vCenter Operations Manager vApp が再起動されます。vApp の再起動中はデータが収集されません。

開始する前に

- アダプタのインストール ファイルがダウンロードされていることを確認します。
- アダプタのインストール ファイル内のビルド番号を書き留めます。

手順

- 1 **VMware-vcops-viewadapter-1.6.0-<buildnumber>.pak** ファイルを一時フォルダにコピーします。
- 2 vCenter Operations Manager 管理ポータルにログインします。
管理ポータルの URL は **https://<ipaddress>/admin/** で、<ipaddress> は vCenter Operations Manager vApp の UI VM の IP アドレスです。
- 3 [更新] タブで、[参照] をクリックして一時フォルダを特定し、PAK ファイルを選択して [開く] をクリックします。
- 4 [更新] をクリックし、[OK] をクリックして更新を確認します。
管理者ポータルによって PAK ファイルがアップロードされます。このアップロードは数分かかる場合があります。
- 5 EULA を読んで、同意する場合は [OK] をクリックします。
- 6 [OK] をクリックして、アダプタのインストール プロセスを確認して、開始します。
インストール プロセスは数分かかる場合があります。インストールが終了すると、[更新] タブにステータス情報が表示されます。
- 7 vCenter Operations Manager のカスタム ユーザー インターフェイスに管理者でログインします。
カスタム ユーザー インターフェイスの URL は **http://<ipaddress>/vcops-custom** で、<ipaddress> は vCenter Operations Manager vApp の UI VM の IP アドレスです。
- 8 [管理] - [サポート] を選択します。
- 9 [情報] タブで、[アダプタ情報] ペインを探し、[アダプタ バージョン] 列に表示される V4H アダプタのビルド番号が PAK ファイル内のビルド番号と一致することを確認します。

次に進む前に

vCenter Operations Manager にアダプタ インスタンスを作成します。[\[vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 アダプタ インスタンスの作成 \(P. 11\)\]](#) を参照してください。

vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 アダプタ インスタンスの作成

vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 アダプタをインストールした後、vCenter Operations Manager 内にこのアダプタのインスタンスを作成する必要があります。

開始する前に

- vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 アダプタをインストールします。[\[vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 アダプタのインストール \(P. 10\)\]](#) を参照してください。
- vCenter Operations Manager のカスタム ユーザー インターフェイスで、[管理] - [サポート] の順に選択し、[アダプタ情報] ペインに [V4H アダプタ] が表示されることを確認します。

手順

- 1 vCenter Operations Manager のカスタム ユーザー インターフェイスに管理者でログインします。
- 2 [環境] - [設定] - [アダプタ インスタンス] を選択します。
- 3 使用するコレクタを[コレクタ]ドロップダウン メニューから選択します。
監視者がコレクタを別途追加しない限り、使用可能なコレクタは [vCenter Operations Standard Server] のみです。
- 4 [アダプタ種別] ドロップダウン メニューから、[V4H アダプタ] を選択します。
- 5 [新規アダプタ インスタンスの追加] アイコンをクリックします。
- 6 [アダプタ インスタンス名] テキスト ボックスにアダプタ インスタンスの名前を入力します。
- 7 [メトリック セット] ドロップダウン メニューから、収集対象のメトリック セットを選択します。

オプション	説明
フル セット	監視対象の環境で使用可能なすべてのメトリックを収集します。
削減セット	限定的なメトリック セットを収集して、Analytics 仮想マシン上のディスク領域を節約します。

- 8 [認証情報] ドロップダウン メニューから、**broker agent** とアダプタ インスタンスとのペアリング時に使用する認証情報の名前を選択し、[追加] をクリックして新しい認証情報を作成します。
最初にアダプタ インスタンスを作成するときは、[認証情報] ドロップダウン メニューは空白です。
- 9 (オプション) アダプタ インスタンスの認証情報を追加する必要がある場合は、これらの手順を実行します。
 - a [認証情報] ドロップダウン メニューの隣にある [追加] をクリックします。
 - b [認証情報の種類] ドロップダウン メニューから [認証情報のペアリング] を選択します。
 - c [インスタンス名] テキスト ボックスに認証情報の名前を入力します。
 - d [サーバキー] テキスト ボックスに、アダプタ インスタンスのサーバキー パスワードを入力します。
broker agent とアダプタ間のペアリングを有効化するには、サーバキー パスワードが必要です。このパスワードは、broker agent の構成時に指定する必要があります。
 - e [OK] をクリックして認証情報を保存します。
 - f [アダプタ インスタンスの追加] ダイアログ ボックスで、[認証情報] ドロップダウン メニューから新しい認証情報を選択します。
- 10 [OK] をクリックしてアダプタ インスタンスを保存します。

次に進む前に

vCenter Operations Manager for Horizon broker agent をインストールします。[「vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 Broker Agent のインストール \(P. 12\)」](#) を参照してください。

vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 Broker Agent のインストール

vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 Broker Agent は、表示 環境の View 接続サーバ ホストにインストールします。表示 環境に複数のポッドが存在する場合は、各ポッドの 1 台の View 接続サーバ ホストにのみ broker agent をインストールします。

表示 環境の broker agent の数に関係なく、必要な vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 アダプタは 1 つのみです。複数の broker agent が単一のアダプタ インスタンスと通信できます。

重要 broker agent を View セキュリティ サーバにインストールすることはできません。

開始する前に

broker agent のインストール ファイルがダウンロードされていることを確認します。

手順

- ローカル管理者グループの一部であるドメイン アカウントを使用して、broker agent のインストール先の View 接続サーバ ホストにログインします。
 - View 接続サーバ ホストの一時フォルダに、`VMware-v4vbrokeragent-x86_64-1.6.0-<buildnumber>.exe` ファイルをコピーします。
 - 一時フォルダで、EXE ファイルを実行し、EULA に同意して [インストール] をクリックします。
 - インストールが完了したら、[終了] をクリックします。
- broker agent は、View 接続サーバと同じフォルダにインストールされます。

broker agent のインストール後、Broker Agent 構成ウィザードが開きます。

次に進む前に

Broker Agent 構成ウィザードを使用して broker agent を構成し、アダプタに接続します。[「vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 Broker Agent の構成 \(P. 12\)」](#) を参照してください。

vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 Broker Agent の構成

broker agent の構成には、Broker Agent 構成ウィザードを使用します。broker agent のインストール後、Broker Agent 構成ウィザードが自動的に開きます。

broker agent の構成中に、vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 broker agent を vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 アダプタとペアにします。broker agent とアダプタのペアリングは、broker agent とデスクトップ エージェントがアダプタと通信できるようにするための必要な認証手順です。ペアリング プロセスが完了するまで、broker agent とデスクトップ エージェントはアダプタと通信できません。

表示 環境にイベント データベースが含まれている場合は、イベント データベースに接続するよう broker agent を構成できます。必要に応じて、特定のデスクトップ プールを監視するよう broker agent を構成できます。

重要 イベント データベースに接続するよう broker agent を構成しない場合、vCenter Operations Manager for Horizon が極度に制限されます。表示 イベントと一部のメトリック (ログオンと再接続の回数など) が、vCenter Operations Manager のダッシュボードに表示されません。

開始する前に

- vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 broker agent をインストールします。[「vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 Broker Agent のインストール \(P. 12\)」](#) を参照してください。

- vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 アダプタのサーバキー パスワードを所有していることを確認します。サーバキー パスワードは、アダプタ インスタンスの認証情報の作成時に指定されています。
- vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 アダプタが実行されている vCenter Operations Manager Analytics 仮想マシンの IP アドレスを所有していることを確認します。Analytics 仮想マシンの IP アドレスは、vCenter Operations Manager 管理ポータル の [ステータス] タブで確認できます。
- 表示 環境にイベント データベースが含まれている場合は、そのデータベース フォーマットがサポートされていることを確認します。「[表示 イベントを提供する Oracle データベースのサポート \(P. 8\)](#)」を参照してください。
- 表示 内の特定のデスクトップ プールを監視するには、それらのプールの ID を取得します。プール ID は View Administrator で確認できます。詳細については、使用している 表示 バージョンの管理ドキュメントを参照してください。

手順

- 1 View Adapter 構成ページで、vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 アダプタが実行されている Analytics 仮想マシンの IP アドレスを入力して、アダプタへの接続に使用するポートを指定します。

デフォルトでは、broker agent はアダプタとの通信にポート 3091 を使用します。デフォルトのポート番号は、ネットワーク構成に応じて変更できます。
- 2 [Adapter とのペアリング] をクリックし、broker agent を vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 アダプタとペアにします。
- 3 ウィザードでパスワードの入力を求めるメッセージが表示されたら、vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 アダプタのサーバキー パスワードを入力して、[次へ] をクリックします。
- 4 View Administrator アカウントのユーザー名、ドメイン、パスワードを入力して確認します。

通常、View Administrator アカウントは、View 接続サーバがインストールされている Windows サーバコンピュータ上のローカル管理者グループの一部です。
- 5 表示 環境にイベント データベースが含まれている場合は、そのデータベースの認証情報を [イベント DB] テキストボックスに入力し、[検証] をクリックして接続を確認し、[次へ] をクリックします。
- 6 (オプション) vCenter Operations Manager で特定のデスクトップ プールを監視するには、次の手順を実行します。

デスクトップ プール ID を指定しない場合は、vCenter Operations Manager はすべてのデスクトップ プールを監視します。
 - a [デスクトップ プールの指定] チェック ボックスを選択し、監視するデスクトップ プールの ID をテキスト ボックスに入力します。

各デスクトップ ID の区切りにはコンマを使用してください。
 - b リストされたデスクトップ プールを含めるか除外するかを選択します。
 - c アプリケーション プールを監視するかどうかを選択します。

監視する特定のアプリケーション プールを選択できません。
 - d [検証] をクリックし、接続を確認します。
- 7 Broker Agent 構成のサマリを確認し、[終了] をクリックします。

構成した設定と broker agent のステータスが [vCenter Operations Manager for Horizon Broker Agent 設定] ダイアログ ボックスに表示されます。
- 8 broker agent サービスが実行されていることを確認して、[閉じる] をクリックします。

次に進む前に

Horizon View 5.2 以降または Horizon 6.0 with View を使用する場合は、vCenter Operations Manager カスタム ユーザー インターフェイスの vCenter Operations Manager for Horizon ダッシュボードで 表示 環境のパフォーマンスの監視を開始できます。[第 3 章 \[vCenter Operations Manager での View 環境の監視 \(P. 21\)\]](#) を参照してください。

View 5.0 または 5.1 を使用する場合は、追加の構成手順を実行する必要があります。[「View 5.0 または 5.1 を監視するための vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 の構成 \(P. 14\)」](#) を参照してください。

broker agent の初期構成以降に環境が変化した場合、broker agent がインストールされている View 接続サーバ ホスト上の設定を変更できます。詳細については、1.5.1 リリースの『vCenter Operations Manager for Horizon View の管理』の「vCenter Operations Manager for Horizon View Broker Agent の設定の変更」を参照してください。

View 5.0 または 5.1 を監視するための vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 の構成

View 5.0 または 5.1 環境では、vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 をインストールおよび構成するためにいくつかのタスクを追加で行う必要があります。

これらのタスクには、vCenter Operations Manager for Horizon アダプタの RMI 認証の無効化、リモート デスクトップへの vCenter Operations Manager for Horizon Broker Agent のインストール、vCenter Operations Manager for Horizon で監視を行うすべてのリモート デスクトップに適用するグループ ポリシー オブジェクト (GPO) の構成が含まれます。

アダプタの RMI 認証の無効化

vCenter Operations Manager for Horizon を使用して View 5.0 または 5.1 環境を監視するには、vCenter Operations Manager for Horizon アダプタでの RMI 認証を無効にする必要があります。

手順については、1.5.1 リリースの『vCenter Operations Manager for View のインストール』ドキュメントの「vCenter Operations Manager for Horizon View Adapter 上の RMI 認証の無効化」を参照してください。

次に進む前に

View 環境のデスクトップに、vCenter Operations Manager for Horizon 6.0 Desktop Agent をインストールします。[「vCenter Operations Manager for Horizon 6.0 Desktop Agent のインストール \(P. 14\)」](#) を参照してください。

vCenter Operations Manager for Horizon 6.0 Desktop Agent のインストール

vCenter Operations Manager for Horizon を使用して View 5.0 または 5.1 の環境を監視するには、vCenter Operations Manager for Horizon 6.0 desktop agent をリモート デスクトップに手動でインストールする必要があります。

リンク クローン デスクトップの場合、View Composer がリンク クローン仮想マシンの生成に使用する親仮想マシンに、desktop agent をインストールします。自動および手動デスクトップ プールのデスクトップの場合、desktop agent をデスクトップ プールの各仮想マシンのデスクトップソースにインストールします。Terminal Services プールの場合、desktop agent を Terminal Server にインストールします。

開始する前に

- vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 アダプタおよび Broker Agent をインストールして構成します。[「vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 のインストールと構成 \(P. 10\)」](#) を参照してください。
- desktop agent をリンク クローン デスクトップにインストールする場合は、再構成操作についてよく理解してください。リンク クローン デスクトップの詳細については、お使いの View バージョンの View 管理ドキュメントを参照してください。
- desktop agent のインストール ファイルがダウンロードされていることを確認します。

手順

- desktop agent をリンク クローン デスクトップにインストールするには、リンク クローン デスクトップ プールの親仮想マシンで次の手順を実行します。

- a vSphere Client で、親仮想マシンのコンソールを開き、ゲスト OS に管理者としてログインします。
- b 親仮想マシンのゲスト OS に対応するデスクトップ エージェントのインストール ファイルをコピーします。

オプション	説明
64 ビットのゲスト OS	VMware-v4vdesktopagent-x86_64-6.0.0-<buildnumber>.exe
32 ビットのゲスト OS	VMware-v4vdesktopagent-6.0.0-<buildnumber>.exe

- c EXE ファイルを実行し、EULA に同意して [インストール] をクリックします。
- d インストールが完了したら、[終了] をクリックします。
desktop agent が View Agent と同じフォルダにインストールされます。
- e 親仮想マシンをシャットダウンします。
- f vSphere Client で、パワーオフ状態の親仮想マシンのスナップショットを作成します。
- g View Administrator で、リンク クローン デスクトップを再構成します。
再構成操作により、親仮想マシンにアンカーされたすべてのリンク クローン デスクトップが更新され、desktop agent が各リンク クローン デスクトップにインストールされます。

- desktop agent を自動または手動デスクトップ プールのデスクトップにインストールするには、プールの各仮想マシンで次の手順を実行します。

重要 自動デスクトップ プールの場合、desktop agent がプール内に新たに作成されたデスクトップにインストールされるように、仮想マシン テンプレートも変更する必要があります。

- a 仮想マシンへのゲスト OS に対応する desktop agent のインストール ファイルをコピーします。

オプション	説明
64 ビットのゲスト OS	VMware-v4vdesktopagent-x86_64-6.0.0-<buildnumber>.exe
32 ビットのゲスト OS	VMware-v4vdesktopagent-6.0.0-<buildnumber>.exe

- b EXE ファイルを実行し、EULA に同意して [インストール] をクリックします。
- c インストールが完了したら、[終了] をクリックします。
desktop agent が View Agent と同じフォルダにインストールされます。

- desktop agent を Terminal Server または物理マシンのデスクトップソースにインストールするには、次の手順を実行します。
 - a Terminal Server または物理マシンのオペレーティングシステムに対応する desktop agent のインストールファイルをコピーします。

オプション	説明
64 ビットのゲスト OS	VMware-v4vdesktopagent-x86_64-6.0.0-<buildnumber>.exe
32 ビットのゲスト OS	VMware-v4vdesktopagent-6.0.0-<buildnumber>.exe

- b EXE ファイルを実行し、EULA に同意して [インストール] をクリックします。
- c インストールが完了したら、[終了] をクリックします。
desktop agent が View Agent と同じフォルダにインストールされます。

次に進む前に

vCenter Operations Manager for Horizon で監視するすべてのリモート デスクトップに適用する GPO を構成します。[\[リモート デスクトップ用 GPO の構成 \(P. 16\)\]](#) を参照してください。

リモート デスクトップ用 GPO の構成

vCenter Operations Manager for Horizon を使用して View 5.0 または 5.1 環境を監視するには、vCenter Operations Manager for Horizon に監視させるすべてのデスクトップに適用するグループ ポリシー オブジェクト (GPO) を構成する必要があります。

手順については、1.5.1 リリースの『vCenter Operations Manager for View のインストール』の「すべてのデスクトップのグループ ポリシー オブジェクトの構成」を参照してください。

vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 へのアップグレード

環境内に vCenter Operations Manager for View 1.5.1 がインストールされている場合は、データを vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 にインポートして、引き続き View ポッドの健全性とパフォーマンスを監視できます。

開始する前に

- Horizon View 5.2 以降または Horizon 6.0 with View を使用して View 環境をアップグレードするか、またはすべてのデスクトップに vCenter Operations Manager for Horizon desktop agent をインストールします。[\[vCenter Operations Manager for Horizon 6.0 Desktop Agent のインストール \(P. 14\)\]](#) を参照してください。
- View 環境をアップグレードしない場合は、desktop agent GPO ポリシーがすべてのデスクトップに適用されていることを確認します。Analytics 仮想マシンをアダプタの場所として使用するよう、GPO ポリシーを構成する必要があります。手順については、1.5.1 リリースの『vCenter Operations Manager for View のインストール』の「すべてのデスクトップのグループ ポリシー オブジェクトの構成」を参照してください。
- vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 アダプタのインストール手順についてよく理解してください。[\[vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 アダプタのインストール \(P. 10\)\]](#) を参照してください。
- vCenter Operations Manager for Horizon broker agent のインストール手順についてよく理解してください。[\[vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 Broker Agent のインストール \(P. 12\)\]](#) を参照してください。
- vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 broker agent の構成手順についてよく理解してください。[\[vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 Broker Agent の構成 \(P. 12\)\]](#) を参照してください。

手順

- 1 vCenter Operations Manager for View 1.5.1 アダプタがインストールされているサーバ上で、vCenter Operations View Adapter サービスを停止して無効にします。

vCenter Operations View Adapter サービスを停止すると、データ収集はアップグレード プロセスが完了するまで中断され、リソースやデータがデータベース内で重複するリスクは低減します。

- 2 vCenter Operations Manager vApp 上に vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 アダプタをインストールします。

アダプタのインストール プロセス中に、リソース種別、メトリック名などを含む vCenter Operations Manager for View 1.5.1 構成がバージョン 1.6 に準拠するように変換されます。vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 アダプタが、1.5.1 アダプタを上書きする形でデプロイされます。1.5.1 アダプタをアンインストールしたり、1.6 アダプタ用の新規のアダプタ インスタンスを作成したりする必要はありません。

- 3 vCenter Operations Manager for View 1.5.1 broker agent をアンインストールします。
- 4 vCenter Operations Manager for View 1.5.1 が監視していたポッド内の View 接続サーバ ホストに vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 broker agent をインストールして構成します。

アップグレード プロセスの完了後は、すべての vCenter Operations Manager for View 1.5.1 リソースが 1.6 データベースに移行します。

セキュリティ機能の構成

vCenter Operations Manager for Horizon コンポーネントで RMI を使用して通信を行います。このアダプタと broker agent コンポーネントで証明書を使用して、認証とデータの暗号化を行います。

RMI サービスが使用するデフォルト ポートは変更可能で、broker agent、デスクトップ エージェント、および特定の RMI サービスのデフォルトの SSL 構成も変更可能です。セキュリティ向上のため、アダプタと broker agent のデフォルトの自己署名証明書を置き換えることができます。

セキュリティ機能の構成の詳細については、テクニカル ホワイト ペーパー『セキュリティ ガイド：vCenter Operations Manager for Horizon View 1.5』を参照してください。このホワイト ペーパー内の情報は、vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 にも適用されます。

vCenter Operations Manager for Horizon アラートの変更

vCenter Operations Manager for Horizon には、事前にしきい値が設定されている事前構成済みの View 関連アラートが多数用意されています。生成されるアラートが多すぎたり少なすぎたりしないように、これらのしきい値の一部を特定の View 環境に合わせて調整する必要がある場合もあります。環境に適用できないアラートを削除すると効率的な場合もあります。

アラートのしきい値を変更するには、vCenter Operation Manager for Horizon アダプタの **describe.xml** ファイルを編集します。

アラート定義のフォーマット

vCenter Operations Manager for Horizon アラートは、vCenter Operations Manager for Horizon アダプタの **describe.xml** ファイルに定義されています。**describe.xml** ファイルは Analytics VM の `/usr/lib/vmware-vcops/user/plugins/inbound/V4V_adapter3/conf` ディレクトリにあります。

アラート定義は、**describe.xml** ファイルの最後に表示されています。次に、**describe.xml** ファイルから抜粋したアラート定義のサンプルを示します。

```
<Alert
adapterkind="V4V"
resourcekind="ViewClient"
type="ht"
```

```
metric="pcoip|avg_pcoip_latency"
criticality="critical">
<Threshold
severity="warning"
operator=">"
value="300"
waitcycle="2"
cancelcycle="3"/>
<Threshold
severity="critical"
operator=">"
value="500"
waitcycle="2"
cancelcycle="3"/>
</Alert>
```

<Alert> 要素の属性

<Alert> 要素の属性には、アダプタの種類、リソースの種類、タイプ、メトリック、およびアラートの重要度レベルを定義します。

サンプルのアラート定義では、アラートの vCenter Operations for Horizon アダプタの種類、Horizon クライアントのリソースの種類、ハードしきい値のアラートタイプ、PCoIP 平均待ち時間メトリック、および「critical」の重要度レベルを定義しています。

<Threshold> 要素の属性

<Threshold> 要素の属性には、ハードしきい値の重要度、演算子、値、待機サイクル、およびキャンセルサイクルを定義します。

サンプルのアラート定義では、Horizon クライアントの PCoIP 平均待ち時間メトリックが 300 ミリ秒を超えた場合に警告アラートを発行し、500 ミリ秒を超えた場合に重大アラートを発行します。

vCenter Operations Manager for Horizon アラートのハードしきい値の変更

vCenter Operations Manager for Horizon アラートの事前設定ハードしきい値が環境に適していない場合は、vCenter Operations Manager for Horizon アダプタの **describe.xml** ファイルを編集してこの値を変更します。

開始する前に

- **describe.xml** ファイルのアラート定義フォーマットについてよく理解してください。[「アラート定義のフォーマット \(P. 17\)」](#) を参照してください。
- Analytics VM にアクセスする管理者権限を有していることを確認します。

手順

- 1 vSphere Client インベントリで、Analytics VM を探し、admin としてログインします。
- 2 Analytics VM で、テキストエディタを使用して **describe.xml** ファイルを開きます。

describe.xml ファイルは `/usr/lib/vmware-vcops/user/plugins/inbound/V4V_adapter3/conf` ディレクトリにあります。

- 3 **describe.xml** ファイルでアラート定義を見つけます。

アラート定義は <Alerts> 要素の **describe.xml** ファイルの下部にあります。

- 4 アラートのハードしきい値を変更するには、そのアラートの <Threshold> 要素にある **value** 属性で指定した値を変更します。

- 5 変更を `describe.xml` ファイルに保存します。
- 6 vCenter Operations Manager 管理ポータルで、vCenter Operations Manager を再起動します。

次に進む前に

アラートのハードしきい値を変更すると、vCenter Operations Manager で他のアラート定義が生成されます。vCenter Operations Manager から元のアラートを削除する場合は、[「vCenter Operations Manager のアラートの削除 \(P. 19\)」](#)を参照してください。

vCenter Operations Manager のアラートの削除

アラートのハードしきい値を変更すると、vCenter Operations Manager で他のアラート定義が生成されます。vCenter Operations Manager から元のアラートを削除できます。

手順

- 1 vCenter Operations Manager のカスタム ユーザー インターフェイスに管理者でログインします。
- 2 [環境] - [設定] - [属性パッケージ]を選択します。
- 3 [アダプタ種別] ドロップダウン メニューから、[V4H アダプタ] を選択します。
- 4 [リソース種別] ドロップダウン メニューから変更したアラートに関連付けられたリソース種別を選択します。
- 5 [すべての属性] パッケージを選択して [選択した属性パッケージの編集] アイコンをクリックします。
- 6 変更したアラートに関連付けられたメトリックを検索します。
- 7 [詳細設定] セクションで、削除するアラートが含まれる行を選択して [選択した行の削除] アイコンをクリックします。
- 8 [OK] をクリックして、変更内容を保存します。

vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 インストールのトラブルシューティング

vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 コンポーネントのインストール中に問題が発生した場合は、ログ ファイルを収集して VMware に送信し、サポートを受けることができます。アダプタのログ レベルを変更して、vCenter Operations Manager カスタム ユーザー インターフェイスでアダプタの健全性ステータスを確認することもできます。

詳細については、『vCenter Operations Manager for View のインストール』ドキュメントの「vCenter Operations Manager for Horizon View のインストールのトラブルシューティング」と 1.5.1 リリース用の『vCenter Operations Manager for Horizon View の管理』ドキュメントの「vCenter Operations Manager for Horizon View での基本管理タスクの実行」を参照してください。

vCenter Operations Manager での View 環境の監視

3

vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 アダプタをインストールすると、vCenter Operations Manager カスタム ユーザー インターフェイスに View 固有のダッシュボードがいくつか表示されます。これらのダッシュボードを使用し、View 環境のパフォーマンスを監視できます。

この章では次のトピックについて説明します。

- [View のダッシュボードの使用 \(P. 21\)](#)
- [View 概要ダッシュボード \(P. 22\)](#)
- [View インフラストラクチャ ダッシュボード \(P. 22\)](#)
- [View ユーザー ダッシュボード \(P. 23\)](#)
- [View リモート セッション ダッシュボード \(P. 24\)](#)
- [View VDI プール ダッシュボード \(P. 24\)](#)
- [View RDS プール ダッシュボード \(P. 25\)](#)
- [View TS プール ダッシュボード \(P. 25\)](#)
- [View VDI トポロジ ダッシュボード \(P. 26\)](#)
- [View RDS トポロジ ダッシュボード \(P. 27\)](#)
- [View アプリケーション トポロジ ダッシュボード \(P. 28\)](#)
- [vSphere トポロジ ダッシュボード \(P. 28\)](#)
- [View Adapter ステータス ダッシュボード \(P. 29\)](#)

View のダッシュボードの使用

View のダッシュボードは vCenter Operations Manager カスタム ユーザー インターフェイスの [ダッシュボード] メニューの [View] グループに配置されています。

View の各ダッシュボードは、少なくとも 1 つのマスター（または提供元の）ウィジェットと複数の受信側のウィジェットで構成されています。マスター ウィジェットはデータを受信側のウィジェットに提供し、受信側のウィジェットはマスター ウィジェットから受信した情報に基づいて、表示するデータを更新します。

View のダッシュボードのウィジェットは、リソース、トップ N 分析、メトリック スパークライン ウィジェットなど標準の vCenter Operations Manager ウィジェットから作成されます。お使いのユーザー アカウントに必要なアクセス権があれば、View ウィジェットやダッシュボードを編集して環境に合わせてカスタマイズしたり、独自の View ダッシュボードを作成したりできます。

ダッシュボードやウィジェットの変更については、『VMware vCenter Operations Manager スタート ガイド（カスタム ユーザー インターフェイス）』を参照してください。

View 概要ダッシュボード

View 概要ダッシュボードは、View 環境全体のステータスを表示します。View 概要ダッシュボードを使用して、エンドツーエンドの View 環境、その基盤となる環境、およびアラートを視覚化します。

View ポッドウィジェットは、View 概要ダッシュボードのマスター ウィジェットです。View ポッドウィジェットでポッドを選択すると、ポッド インジケータ メトリック、ポッド セッション メトリック、およびポッド容量メトリック ウィジェットに、選択したポッドのデータが表示されます。

View 概要ダッシュボードを使用する上でのヒント

- ポッド全体のポッド インジケータ メトリック ウィジェットのデータがロールアップされるため、このウィジェットはクライアントのパフォーマンスおよびユーザー エクスペリエンスについての有用な情報を提供します。
- ポッド全体のステータスを表示するには、ポッド インジケータ メトリック ウィジェットでポッド健全性、ポッド ワークロード、ポッド接続セッション、およびポッド切断セッションの各メトリックの値を表示します。
- Horizon クライアントとリモート デスクトップとの間の接続の質を評価するには、ポッド インジケータ メトリック ウィジェットでポッド平均 PCoIP 待ち時間、ポッド平均 PCoIP パケットロス、ポッド PCoIP TX バンド幅、およびポッド PCoIP RX バンド幅の各メトリックの値を表示します。
- View ポッド ウィジェットを使用して、選択したポッドの合計セッション数（接続セッション数や切断セッション数を含む）を特定します。ポッド セッション メトリック ウィジェットを使用して、デスクトップ、アプリケーション、PCoIP、RDP、および Blast HTML セッションの各メトリックを表示します。
- 使用されている容量の割合、使用可能なセッションの容量、最大セッション容量など、選択したポッドの容量関連のメトリックを表示するには、ポッド容量メトリック ウィジェットの各メトリックを表示します。
- View アラート ウィジェットを使用して、アクティブなすべての View 関連アラートのリストを表示します。リスト内のアラートをダブルクリックすると、考えられるアラートの原因と環境への影響に関する情報を表示できます。

View インフラストラクチャ ダッシュボード

View インフラストラクチャ ダッシュボードを使用すると、View 環境をサポートする vSphere および View インフラストラクチャにすばやくアクセスできます。

View インフラストラクチャ ホスト、View VDI デスクトップ VM、View データストア、View RDS ホスト、および View TS ホストはヒート マップ ウィジェットです。これらのウィジェットは、View 環境内のインフラストラクチャ ホスト、リモート デスクトップ、データストア、RDS (Microsoft Remote Desktop Services) ホスト、Terminal Services ホストの健全性、ワークロード、接続に関する情報を表示します。

注意 RDS ホストは Horizon 6.0 with View 環境に固有のホストです。Terminal Services ホストは Horizon View 5.3.x 以前の環境に固有のホストです。

View インフラストラクチャ ダッシュボードを使用する上でのヒント

- 各ウィジェットの色のついた四角形は、特定のリソースを表します。たとえば、View VDI デスクトップ VM ウィジェットでは、四角形はそれぞれ特定の仮想マシンを表します。その関連付けられたリソースについての基本情報を表示するには、四角形をポイントします。
- 四角形のサイズは 1 つのメトリックの値を示し、四角形の色は別のメトリックの値を示し、ウィジェットがどのメトリック値を表示するかはウィジェットの構成で指定します。たとえば、[構成] ドロップダウン メニューから [ワークロードによってサイズ調整 - 健全性によって色づけ] を選択すると、四角形がワークロード属性の値に応じてサイズ調整され、健全性属性の値に応じて色づけされます。値の範囲中で、赤色が低い値を示し、緑色が高い値を示します。

View ユーザー ダッシュボード

View ユーザー ダッシュボードを使用して、ユーザー各自の問題の視覚化とトラブルシューティングを行います。このダッシュボードは、ユーザーの問題のトラブルシューティングを行う必要がある View 管理者やヘルプ デスクの専門家に特に便利です。

View セッション ウィジェットには、環境内のすべての監視対象 View ポッドにおけるログイン中のユーザー セッションがすべて表示されます。識別子 3 列には、domain\username という形式でユーザー名が含まれます。識別子 5 列には、関連付けられたデスクトップ プールの名前が含まれ、RDS デスクトップ セッションとリモート アプリケーション セッションの場合は、セッションをホストする RDS の名前が含まれます。

View ユーザー ダッシュボードを使用する上でのヒント

- ユーザーが呼び出す場合は、View セッション ウィジェット ツールバー上の [検索] テキスト ボックスを使用して、ユーザーのセッションを検索します。ユーザー セッションを選択すると、そのセッションに関連付けられたリソースのステータス情報が、セッション関連オブジェクト ウィジェットに表示されます。セッション関連オブジェクト ウィジェット内の各アイコンは、特定のリソースを表します。リソースまたは関連するリソースのいずれかにアクティブなアラートがあると、アイコンの横に赤色の三角形が表示されます。
- セッション関連オブジェクト ウィジェット内のリソース アイコンをクリックすると、そのリソースについて収集されたメトリックがオブジェクトメトリック ウィジェットに表示されます。この情報は、正常な範囲を外れたメトリックを特定するのに役立ちます。たとえば、データストア要求が高かったり、ユーザーにプロビジョニングされたディスク領域が正常よりも大きくなっている場合などが考えられます。
- ほとんどのリソースについて、オブジェクトメトリック ウィジェットには、リソースタイプに特有のものとして事前構成されたメトリックのリストが表示されます。事前構成されたメトリックのリストがないリソースの場合、オブジェクトメトリック ウィジェットには、選択されたリソースにとって重要だと考えられるメトリックが表示されます。期待される範囲外にあるもの、一定のしきい値を上限または下限を超えているもの、あるいは KPI としてマークされているものがこれに該当します。
- セッション関連オブジェクト ウィジェット内のリソース アイコンをクリックすると、そのリソースの一定期間のメトリック値を含んだグラフがオブジェクトメトリック チャート ウィジェットに表示されます。これらのグラフから、KPI の傾向を簡単に把握できます。メトリック名の隣にある灰色のバーは、そのメトリックに予想される範囲を示します。異常が通知されたり、一部のメトリックが特定のデスクトップの動的しきい値を超えていると表示されることがあります。
- 今後の分析のためにオブジェクトメトリック チャート ウィジェットにメトリックを追加するには、オブジェクトメトリック ウィジェットでメトリックを選択し、[グラフへ移動] アイコンをクリックします。
- セッション関連オブジェクト ウィジェットでリソース アイコンをクリックすると、そのリソースの健全性の低下の考えられる原因が、順序付けされたメトリック異常ウィジェットに表示されます。順序付けされたメトリック異常ウィジェットには、そのメトリックが問題の原因に影響している可能性のパーセンテージを含め、選択したリソースのアラートに影響している関連リソースのメトリックに関する情報が表示されます。
- オブジェクトアラート ウィジェットを使用して、セッション関連オブジェクト ウィジェットで選択したリソースに関連付けられたオープン アラートを表示します。その考えられる原因と環境に与える影響についての情報を表示するには、アラートをダブルクリックします。

注意 vCenter Operations Manager はデータを収集して評価し、履歴トレンドに基づいて正常な動作または異常な動作を判断します。異常動作の判断、問題の分析、または特定のユーザー、デスクトップ仮想マシン、その他のインフラストラクチャ リソースについての問題の解決を行うには、ヘルプ デスクの専門家または仮想インフラストラクチャの管理者による調査が必要です。

View リモート セッション ダッシュボード

View リモート セッション ダッシュボードでは、お使いの View 環境で実行中のすべてのタイプのセッションを簡単に把握することができます。ダッシュボードのウィジェットは3つの列で編成されており、左の列には VDI デスクトップ セッションのウィジェット、中央の列には RDS デスクトップ セッションのウィジェット、右の列にはアプリケーション セッションのウィジェットが含まれます。各列には、ヒート マップ ウィジェットが1つとトップ N 分析ウィジェットが4つ含まれます。

注意 RDS デスクトップ セッションとアプリケーション セッションは、Horizon 6.0 with View 環境に固有のセッションです。

View リモート セッション ダッシュボードを使用する上でのヒント

- VDI デスクトップセッション、RDS デスクトップセッション、およびアプリケーションセッションのウィジェットの色をついた四角形は、特定のリソースを表します。たとえば、VDI デスクトップセッションのウィジェットでは、四角形はそれぞれ特定の VDI デスクトップを表します。その関連付けられたリソースについての基本情報を表示するには、四角形をポイントします。
- 四角形のサイズは1つのメトリックの値を示し、四角形の色は別のメトリックの値を示し、ウィジェットがどのメトリック値を表示するかはウィジェットの構成で指定します。たとえば、[構成] ドロップダウン メニューから [ワークロードによってサイズ調整 - 健全性によって色づけ] を選択すると、四角形がワークロードメトリックの値に応じてサイズ調整され、健全性メトリックの値に応じて色づけされます。値の範囲中で、赤色が低い値を示し、緑色が高い値を示します。
- 各タイプの待ち時間、転送バンド幅、転送パケットロス、ログオン時間の値が最も高いセッションを表示するには、トップ N 分析ウィジェットを使用します。カテゴリ内で極端なパフォーマンスを示すものを表示することによって、環境の全体的なパフォーマンスの評価に役立ちます。

View VDI プール ダッシュボード

View VDI プール ダッシュボードを使用して、View 環境内の VDI デスクトップ プールと VDI デスクトップセッションのパフォーマンスを表示します。VDI デスクトップ プールは、リンク クローン デスクトップ プール、自動デスクトップ プール、または手動デスクトップ プールのいずれかです。

VDI デスクトップ プール下のウィジェットと VDI デスクトップ プール インジケータ メトリック ウィジェットは、左右2つの列に編成されています。左側の列には VDI デスクトップ プールのウィジェットが含まれ、右側の列には VDI デスクトップ プール セッションのウィジェットが含まれます。各列には、ヒート マップ ウィジェットが1つとトップ N 分析ウィジェットが4つ含まれます。

VDI デスクトップ プール ウィジェットは、ダッシュボード上のヒート マップ ウィジェットのマスター ウィジェットです。たとえば、VDI デスクトップ プール ウィジェットでデスクトップ プールを選択すると、VDI デスクトップ プール仮想マシン ウィジェットによってデスクトップ仮想マシンがそのデスクトップ プールに表示されます。VDI デスクトップ プール セッション ウィジェットによって、そのデスクトップ プールに現在ログオンしているデスクトップセッションが表示されます。

View VDI プール ダッシュボードを使用する上でのヒント

- VDI デスクトップ プール インジケータ メトリック ウィジェット内のグラフを使用して、選択したメトリックの一定期間にわたる値を表示して、KPI の傾向を簡単に把握できます。
- VDI デスクトップ プール仮想マシン ウィジェットと VDI デスクトップ プール セッション ウィジェットの色をついた四角形は、特定のリソースを表します。たとえば、VDI デスクトップ プール仮想マシン ウィジェットでは、四角形はそれぞれ特定の仮想マシンを表します。その関連付けられたリソースについての基本情報を表示するには、四角形をポイントします。

- 四角形のサイズは 1 つのメトリックの値を示し、四角形の色は別のメトリックの値を示し、ウィジェットの構成でウィジェットが表示するメトリック値を特定します。たとえば、[構成] ドロップダウン メニューから [ワークロードによってサイズ調整 - 健全性によって色づけ] を選択すると、四角形がワークロード メトリックの値に応じてサイズ調整され、健全性メトリックの値に応じて色づけされます。値の範囲中で、赤色が低い値を示し、緑色が高い値を示します。
- デスクトップ仮想マシンのトップ N 分析ウィジェットを使用して、CPU、メモリ、ディスク、およびネットワークワークロードが最も大きい仮想マシンを表示します。デスクトップセッションのトップ N 分析ウィジェットを使用して、待ち時間、転送バンド幅、転送パケットロス、ログオン時間が最も大きいセッションを表示します。カテゴリ内で極端なパフォーマンスを示すものを表示することによって、環境の全体的なパフォーマンスの評価に役立ちます。

View RDS プール ダッシュボード

View RDS プール ダッシュボードを使用して、View 環境のファーム、RDS ホスト、RDS デスクトップ プール、アプリケーション プールのパフォーマンスを表示します。

注意 View RDS プール ダッシュボードは Horizon 6.0 with View 環境に固有のダッシュボードです。View 環境に關係のないダッシュボードは隠すことができます。ダッシュボードの構成の詳細については、『VMware vCenter Operations Manager スタートガイド (カスタム ユーザー インターフェイス)』を参照してください。

View RDS プール ダッシュボードのウィジェットは 3 つの列で編成されており、左の列にはファームのウィジェット、中央の列には RDS デスクトップ プールのウィジェット、右の列にはアプリケーション プールのウィジェットが含まれます。

View RDS プール ダッシュボードの各列には、リソース ウィジェットが 1 つ、ヒート マップ ウィジェットが 1 つ、トップ N 分析ウィジェットが 4 つ含まれます。各リソース ウィジェットは、その列のヒート マップ ウィジェットのマスター ウィジェットです。たとえば、最初の列のファーム ウィジェットでファームを選択すると、選択したファームのデータがその列のヒート マップ ウィジェットに表示されます。

View RDS プール ダッシュボードを使用する上でのヒント

- RDS ホスト ウィジェット、RDS デスクトップセッション ウィジェット、アプリケーションセッション ウィジェットの色のついた四角形は、特定のリソースを表します。たとえば、RDS ホスト ウィジェットでは、四角形はそれぞれ特定の RDS ホストを表します。その関連付けられたリソースについての基本情報を表示するには、四角形をポイントします。
- 四角形のサイズは 1 つのメトリックの値を示し、四角形の色は別のメトリックの値を示し、ウィジェットがどのメトリック値を表示するかはウィジェットの構成で指定します。たとえば、[構成] ドロップダウン メニューから [ワークロードによってサイズ調整 - 健全性によって色づけ] を選択すると、四角形がワークロード メトリックの値に応じてサイズ調整され、健全性メトリックの値に応じて色づけされます。値の範囲中で、赤色が低い値を示し、緑色が高い値を示します。
- RDS ホストのトップ N 分析ウィジェットを使用して、使用する CPU プロセッサ時間、使用中のコミット済みバイト数、1 秒あたりのディスク転送数、1 秒あたりの送信バイト数が最も大きい RDS ホストを表示します。RDS デスクトップセッションと RDS アプリケーションセッションのトップ N 分析ウィジェットを使用して、待ち時間、転送バンド幅、転送パケットロス、セッションのログオン時間が最も大きいセッションを表示します。カテゴリ内で極端なパフォーマンスを示すものを表示することによって、環境の全体的なパフォーマンスの評価に役立ちます。

View TS プール ダッシュボード

View TS プール ダッシュボードを使用して、Terminal Services デスクトップ プール、Terminal Services ホスト、および View 環境内の Terminal Services デスクトップセッションのパフォーマンスを表示します。

注意 View TS プール ダッシュボードは View 5.3.x 以前の環境に固有のダッシュボードです。ダッシュボード タブの閉じるアイコン ([X]) をクリックして、View 環境に關係のないダッシュボードを非表示にできます。ダッシュボードの構成の詳細については、『VMware vCenter Operations Manager スタートガイド (カスタム ユーザー インターフェイス)』を参照してください。

Terminal Services デスクトップ プールおよび TS デスクトップ プール インジケータ メトリック ウィジェットの下ウィジェットは、2つの列に整理されています。左の列には Terminal Services ホストのウィジェット、右の列には Terminal Services デスクトップ プール セッションのウィジェットが含まれます。各列には、ヒート マップ ウィジェットが1つとトップ N 分析ウィジェットが4つ含まれます。

Terminal Services デスクトップ プール ウィジェットは、ヒート マップ ウィジェットのマスター ウィジェットです。たとえば、Terminal Services デスクトップ プール ウィジェットでデスクトップ プールを選択すると、TS ホスト ウィジェットにそのデスクトップ プールの Terminal Services ホストが表示され、TS デスクトップ セッション ウィジェットにそのデスクトップ プールの Terminal Services デスクトップ セッションが表示されます。

View TS プール ダッシュボードを使用する上でのヒント

- TS デスクトップ プール インジケータ メトリック ウィジェットのグラフを使用して、選択したメトリックの一定期間にわたる値を表示して、KPI の傾向を簡単に把握できます。
- TS ホストおよび TS デスクトップ セッション ウィジェットの色のついた四角形は、特定のリソースを表します。たとえば、TS ホスト ウィジェットでは、四角形はそれぞれ特定の Terminal Services ホストを表します。その関連付けられたリソースについての基本情報を表示するには、四角形をポイントします。
- 四角形のサイズは1つのメトリックの値を示し、四角形の色は別のメトリックの値を示し、ウィジェットの構成でウィジェットが表示するメトリック値を特定します。たとえば、[構成] ドロップダウン メニューから [ワークロードによってサイズ調整 - 健全性によって色づけ] を選択すると、四角形がワークロード メトリックの値に応じてサイズ調整され、健全性メトリックの値に応じて色づけされます。値の範囲中で、赤色が低い値を示し、緑色が高い値を示します。
- Terminal Services ホストのトップ N 分析ウィジェットを使用して、CPU プロセッサ時間、1秒あたりのディスク転送数、1秒あたりの送信バイト数、および使用中のバイト数の値が最も高いホストを表示します。Terminal Services デスクトップ セッションのトップ N 分析ウィジェットを使用して、CPU プロセッサ時間、1秒あたりのセッションディスク読み取り数、1秒あたりの送信バイト数、およびセッション ログオン時間の値が最も高いセッションを表示します。カテゴリ内で極端なパフォーマンスを示すものを表示することによって、環境の全体的なパフォーマンスの評価に役立ちます。

View VDI トポロジ ダッシュボード

View VDI トポロジ ダッシュボードを使用して、View 環境内の View ポッド、セキュリティ サーバ、View 接続サーバ インスタンス、VDI デスクトップ プール、仮想マシン、VDI デスクトップ セッション、および Horizon クライアントのステータスとパフォーマンスを表示します。

View VDI インフラストラクチャ ウィジェットには、各インフラストラクチャ層のリソース間の関係が表示されます。このウィジェットは、View VDI トポロジ ダッシュボードのマスター ウィジェットです。各リソースはバッジによって表されます。View VDI インフラストラクチャ ウィジェットでリソース バッジをクリックすると、ダッシュボード上の他のウィジェットにそのリソースのデータが表示されます。

View VDI トポロジ ダッシュボードを使用する上でのヒント

- View VDI インフラストラクチャ ウィジェットでは、健全性、ワークロード、異常の数、重大なアラートの数に基づいてリソースを表示できます。表示を変更するには、ウィジェットの左上にあるバッジをクリックします。たとえば、View 環境内のリソースの現在のワークロードを表示するには、ワークロード バッジをクリックします。バッジをポイントすると、関連するリソースの詳細情報を確認できます。
- View VDI インフラストラクチャ ウィジェットでリソース バッジをクリックすると、関連するリソースがウィジェットで強調表示され、それらのリソースのステータス情報が関連オブジェクト ウィジェットに表示されます。関連オブジェクト ウィジェット内の各アイコンは、特定のリソースを表します。オブジェクトまたは関連するリソースのいずれかにアクティブなアラートがあると、アイコンの横に赤色の三角形が表示されます。
- オブジェクトメトリック ウィジェットを使用して、選択するリソースに対して収集されたメトリックを表示します。この情報は、正常な範囲を外れたメトリックを特定するのに役立ちます。

- ほとんどのリソースについて、オブジェクト メトリック ウィジェットには、リソース タイプに特有のものとして事前構成されたメトリックのリストが表示されます。事前構成されたメトリックのリストがないリソースの場合、オブジェクト メトリック ウィジェットには、選択されたリソースにとって重要だと考えられるメトリックが表示されます。期待される範囲外にあるもの、一定のしきい値を上限または下限を超えているもの、あるいは KPI としてマークされているものがこれに該当します。
- 順序付けされたメトリック異常ウィジェットを使用して、選択しているリソースの健全性の低下の考えられる原因を特定します。順序付けされたメトリック異常ウィジェットには、そのメトリックが問題の原因に影響している可能性のパーセンテージを含め、リソースのアラートに影響している関連リソースのメトリックに関する情報が表示されません。

View RDS トポロジ ダッシュボード

View RDS トポロジ ウィジェットを使用して、RDS デスクトップ プールおよび関連するファーム、RDS ホスト、RDS デスクトップ セッション、および Horizon クライアントのステータスとパフォーマンスを表示します。

注意 View RDS トポロジ ダッシュボードは View 6.0 環境に固有のダッシュボードです。View 環境に関係のないダッシュボードは隠すことができます。ダッシュボードの構成の詳細については、『VMware vCenter Operations Manager スタート ガイド (カスタム ユーザー インターフェイス)』を参照してください。

RDS デスクトップ インフラストラクチャ ウィジェットには、各インフラストラクチャ層のリソース間の関係が表示されます。このウィジェットは、View RDS トポロジ ダッシュボードのマスター ウィジェットです。各リソースはバッジによって表されます。View RDS トポロジ ダッシュボードでリソース バッジを選択すると、ダッシュボード上の他のウィジェットにそのリソースのデータが表示されます。

View RDS トポロジ ダッシュボードを使用する上でのヒント

- RDS デスクトップ インフラストラクチャ ウィジェットでは、健全性、ワークロード、異常または障害の数に基づいてリソースを表示できます。表示を変更するには、ウィジェットの左上にあるバッジをクリックします。たとえば、RDS デスクトップ インフラストラクチャのリソースの現在のワークロードを表示するには、ワークロード バッジをクリックします。バッジをポイントすると、関連するリソースの詳細情報を確認できます。
- RDS デスクトップ インフラストラクチャ ウィジェットでリソース バッジをクリックすると、関連するリソースがウィジェットで強調表示され、それらのリソースのステータス情報が関連オブジェクト ウィジェットに表示されます。関連オブジェクト ウィジェット内の各アイコンは、特定のリソースを表します。リソースまたは関連するリソースのいずれかにアクティブなアラートがあると、アイコンの横に赤色の三角形が表示されます。
- オブジェクト メトリック ウィジェットを使用して、選択するリソースに対して収集されたメトリックを表示します。この情報は、正常な範囲を外れたメトリックを特定するのに役立ちます。
- ほとんどのリソースについて、オブジェクト メトリック ウィジェットには、リソース タイプに特有のものとして事前構成されたメトリックのリストが表示されます。事前構成されたメトリックのリストがないリソースの場合、オブジェクト メトリック ウィジェットには、選択されたリソースにとって重要だと考えられるメトリックが表示されます。期待される範囲外にあるもの、一定のしきい値を上限または下限を超えているもの、あるいは KPI としてマークされているものがこれに該当します。
- 順序付けされたメトリック異常ウィジェットを使用して、選択しているリソースの健全性の低下の考えられる原因を特定します。順序付けされたメトリック異常ウィジェットには、そのメトリックが問題の原因に影響している可能性のパーセンテージを含め、リソースのアラートに影響している関連リソースのメトリックに関する情報が表示されません。

View アプリケーション トポロジ ダッシュボード

View アプリケーション トポロジ ダッシュボードを使用して、アプリケーション プールとその関連付けられたファーム、RDS ホスト、アプリケーション セッション、アプリケーション、および Horizon クライアントのステータスとパフォーマンスを表示します。

注意 View アプリケーション トポロジ ダッシュボードは Horizon 6.0 with View 環境に固有のダッシュボードです。View 環境に関係のないダッシュボードは隠すことができます。ダッシュボードの構成の詳細については、『VMware vCenter Operations Manager スタート ガイド (カスタム ユーザー インターフェイス)』を参照してください。

アプリケーション インフラストラクチャ ウィジェットには、各インフラストラクチャ層のリソース間の関係が表示されます。このウィジェットは、View アプリケーション トポロジ ダッシュボードのマスター ウィジェットです。各リソースはバッジによって表されます。アプリケーション インフラストラクチャ ウィジェットでリソース バッジを選択すると、ダッシュボード上の他のウィジェットにそのリソースのデータが表示されます。

View アプリケーション トポロジ ダッシュボードを使用する上でのヒント

- アプリケーション インフラストラクチャ ウィジェットでは、健全性、ワークロード、異常または障害の数に基づいてリソースを表示できます。表示を変更するには、ウィジェットの左上にあるバッジをクリックします。たとえば、アプリケーション インフラストラクチャのリソースの現在のワークロードを表示するには、ワークロード バッジをクリックします。バッジをポイントすると、関連付けられたリソースの詳細情報を確認できます。
- アプリケーション インフラストラクチャ ウィジェットでリソース バッジをクリックすると、関連するリソースがウィジェットで強調表示され、それらのリソースのステータス情報が関連オブジェクト ウィジェットに表示されます。関連オブジェクト ウィジェット内の各アイコンは、特定のリソースを表します。リソースまたは関連オブジェクトのいずれかにアクティブなアラートがあると、アイコンの横に赤色の三角形が表示されます。
- オブジェクト メトリック ウィジェットを使用して、選択するリソースに対して収集されたメトリックを表示します。この情報は、正常な範囲を外れたメトリックを特定するのに役立ちます。
- ほとんどのリソースについて、オブジェクト メトリック ウィジェットには、リソース タイプに特有のものとして事前構成されたメトリックのリストが表示されます。事前構成されたメトリックのリストがないリソースの場合、オブジェクト メトリック ウィジェットには、選択されたリソースにとって重要だと考えられるメトリックが表示されます。期待される範囲外にあるもの、一定のしきい値を上限または下限を超えているもの、あるいは KPI としてマークされているものがこれに該当します。
- 順序付けされたメトリック異常ウィジェットを使用して、選択しているリソースの健全性の低下の考えられる原因を特定します。順序付けされたメトリック異常ウィジェットには、そのメトリックが問題の原因に影響している可能性のパーセンテージを含め、リソースのアラートに影響している関連リソースのメトリックに関する情報が表示されます。

vSphere トポロジ ダッシュボード

vSphere トポロジ ダッシュボードを使用して、カスタム グループ、vCenter Server システム、データセンター、クラスター、ホスト、仮想マシン、データストアなど、vSphere トポロジのコンポーネントのステータスとパフォーマンスを表示します。

vSphere インフラストラクチャ ウィジェットは、vSphere トポロジ ダッシュボードのマスター ウィジェットです。vSphere インフラストラクチャ ウィジェットでリソースをクリックすると、ダッシュボード上の他のウィジェットに、選択したリソースのデータが表示されます。

vSphere トポロジ ダッシュボードを使用する上でのヒント

- vSphere インフラストラクチャ ウィジェットでは、健全性、ワークロード、異常または障害の数に基づいてリソースを表示できます。表示を変更するには、ウィジェットの左上にあるバッジをクリックします。たとえば、vSphere インフラストラクチャのリソースの現在のワークロードを表示するには、ワークロード バッジをクリックします。バッジをポイントすると、関連付けられたリソースの詳細情報を確認できます。

- vSphere インフラストラクチャ ウィジェットでバッジをクリックすると、関連するリソースのステータス情報が関連オブジェクト ウィジェットに表示されます。関連オブジェクト ウィジェット内の各アイコンは、特定のリソースを表します。リソースまたは関連するリソースのいずれかにアクティブなアラートがあると、アイコンの横に赤色の三角形が表示されます。
- 順序付けされたメトリック異常ウィジェットを使用して、選択しているリソースの健全性の低下の考えられる原因を特定します。順序付けされたメトリック異常ウィジェットには、そのメトリックが問題の原因に影響している可能性のパーセンテージを含め、リソースのアラートに影響している関連リソースのメトリックに関する情報が表示されません。

View Adapter ステータス ダッシュボード

View アダプタ ステータス ダッシュボードを使用して、vCenter Operations Manager for Horizon アダプタおよびこれらのアダプタに接続されている vCenter Operations Manager for Horizon Broker Agent の健全性情報を表示します。View アダプタ ステータス ダッシュボードを使用してライセンスのコンプライアンスを確認することもできます。

View アダプタ 選択ウィジェットは、ダッシュボード上のアダプタ関連ウィジェットのマスター ウィジェットです。View アダプタ 選択ウィジェットでアダプタを選択すると、View アダプタ 統計ウィジェットおよび View アダプタ ステータス ウィジェットに、選択したアダプタのデータが表示されます。

View Broker Agent 選択ウィジェットは、ダッシュボード上の Broker Agent 関連ウィジェットのマスター ウィジェットです。View Broker Agent 選択ウィジェットで Broker Agent を選択すると、View Broker Agent DB 収集統計、View Broker Agent メトリック収集統計、View Broker Agent トポロジ収集統計、View Broker Agent ステータスの各ウィジェットに、選択した Broker Agent のデータが表示されます。

View アダプタ ステータス ダッシュボードを使用する上でのヒント

- View アダプタ ステータス ウィジェットは、前回の収集期間の長さ、前回の収集期間中にデータ サンプルを送信したデスクトップの数、前回の収集期間中にアダプタが受信したリソースの合計数など、選択したアダプタに関する重要なメトリックを表示するために使用します。
- View Broker Agent ステータス ウィジェットは、トポロジ、メトリック、およびデータベースのイベント収集時間およびユーザー セッション、デスクトップ仮想マシン、およびデータベース イベント レコード カウントなど、選択した Broker Agent に関する重要なメトリックを表示するために使用します。
- View 同時セッション カウント ウィジェットは、同時デスクトップ セッションの数がライセンスで指定されている限度を下回っていることを確認するために使用します。vCenter Operations Manager for Horizon は同時デスクトップ セッション数でライセンスが付与されます。
- View ライセンス付与済みセッション カウント ウィジェットは、vCenter Operations Manager ライセンスのコンプライアンスを確認するために使用します。vCenter Operations Manager は、仮想マシンの実行状態にかかわらず、仮想マシンの数でライセンスが付与されます。
- View Broker Agent トポロジ収集統計、View Broker Agent メトリック収集統計、および View Broker Agent DB イベント収集統計の各ウィジェットに、選択した Broker Agent の収集統計が表示されます。これらのウィジェットには、関連する収集メトリックの一定期間の値を含む、単純なグラフが表示されます。

Broker Agent メトリックについて

View アダプタ ステータス ダッシュボード上の Broker Agent メトリックは正確ですが、その値が不適切なことがあります。これらのメトリックは Broker Agent 内のさまざまなアクティビティに対応しているため、それぞれ異なる間隔で更新されます。このため、一部のメトリックが古かったり最新でないことがあります。

たとえば、View Broker Agent ステータス ウィジェット内のトポロジ収集時間、ユーザー セッション カウント、デスクトップ仮想マシン カウントの各メトリックは、1 時間に 1 回しか更新されません。ユーザー セッション カウント メトリックの値は最大で 1 時間前の値である可能性があるため、他のダッシュボードに表示されるセッション カウント値と一致しないことがあります。

他の例として、DB イベント収集時間メトリックおよび DB イベント レコード カウント メトリックに、データが収集されている場合でも、データがないことを示す疑問符 (?) が表示されることがあります。この状況は、過去 6 時間に関連する vCenter Operations Manager for Horizon データベース イベントが収集されていない場合に発生します。これは、これらのメトリックは Broker Agent がアダプタにイベントを送信する際（セッション接続イベントや View エラーイベント）にのみ更新されるためです。

一般に、メトリック収集メトリックは 5 分ごとに送信され、トポロジ収集メトリックは毎時間送信されます。データベース イベント収集メトリックの送信頻度は、1 分に 1 回と頻繁な場合もあれば、関連した vCenter Operations Manager for Horizon イベントと同じぐらい頻度が低い場合もあります。

インデックス

B

Broker Agent の構成 12
Broker Agent の要件 8

D

describe.xml ファイル 17
desktop agent のソフトウェア要件 8

H

ハードウェア要件 8

O

Oracle イベント データベースのサポート 8

R

RMI 認証 14

V

View 5.0 および 5.1 desktop agent のインストール 14
View 5.0 および 5.1 のインストール タスク 14
View RDS トポロジ ダッシュボード 27
View RDS プール ダッシュボード 25
View TS プール ダッシュボード 25
View VDI トポロジ ダッシュボード 26
View VDI プール ダッシュボード 24
View アダプタ ステータス ダッシュボード 29
View アプリケーション トポロジ ダッシュボード 28
View インフラストラクチャ ダッシュボード 22
View 概要ダッシュボード 22
View ユーザー ダッシュボード 23
View リモート セッション ダッシュボード 24
vSphere トポロジ ダッシュボード 28

あ

アダプタ インスタンス 11
アダプタのインストール 10
アダプタのソフトウェア要件 7
アップグレード手順 16
アラートの削除 19
アラートの定義 17

い

インストール手順 9, 10
インストール ファイル 9

こ

互換性マトリクス 7

せ

セキュリティの考慮事項 17

た

対象読者 5
ダッシュボード 21
ダッシュボードの概要 21

と

トラブルシューティング 19

は

ハードしきい値 18

ふ

Broker Agent のインストール 12

よ

要件 7
用語集 5

り

リモート デスクトップのグループ ポリシー オブジェクト 16

